CIVIC FORCE
シビックフォース ニュースレター
NEWS LETTER
vol.26
2022.03

東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝える祈りの場として整備された石巻南浜津波復興祈念公園。地震、津波、火災、地盤沈下の被害を複合的に受け、最大被災地と呼ばれるこの地で、語り部などの伝承活動が行われている。©公益社団法人3.11みらいサポート

東日本大震災から11年

あの日の記憶と教訓を後世へ

「てんでんこ」という言葉があります。東北の方言で「各自」の意味。海岸で揺れを感じたら、周囲をかまうよりもまずてんでんばらばらに逃げて、自分の命を守れ、という言い伝えです。

岩手県釜石市の小中学校では、この教訓を生かして避難所よりも高い場所に避難し、約3,000人の子どもたちが助かりました。「釜石の奇跡」とも呼ばれますが、様々な訓練を積み重ねてきた結果、小中学生たちは自らの命を守ることができました。

他方、てんでんこで逃げたまま、避難先の地で月日が流れてしまったという人もいます。原発事故の被害を受けた福島県では、今も2万7,000人以上が県外で暮らしています。帰還困難区域のうち、今年、大熊町、双葉町、葛尾村の3町村内の復興拠点※で避難指示解除が予定され、浪江町と富岡町、飯館村の3町村も翌2023年春の解除を目指しています。戻る人、戻らない人、様々な立場の違いから起きる分断の構図が町の再建を阻んでいますが、「まずはそれぞれの歳月を語り、伝え合うことから」と動き出す人がいます。

2011年3月の東日本大震災から11年。
Civic Forceが力を入れるテーマの一つに「記憶の伝承」があります。今号のニュースレターでは、東北の被災地で広がる伝承の取り組みをはじめ、震災によって失われた生態系や地域コミュニティの活気を取り戻す活動についてご紹介します。

※正式名称は特定復興再生拠点区域。放射線量が高く、立入りが制限されている帰還困難区域のうち、先行的に居住や農業などの再開をめざす区域。

ご寄付のお礼とご報告

2021年夏豪雨 2021年7月と8月に発生した豪雨被害の支援活動に対し、2022年2月22日までに2,857万6,962円（運営費15%含む）のご寄付をいただきました。本事業のご寄付受付は終了しましたが、被災した地域の復旧・復興の道のりはまだ半ばです。Civic Forceは「NPOパートナー協働事業」を通じて、引き続き地域主体の復旧・復興の動きをサポートしています。

プロ野球選手会ファンド 日本プロ野球選手会と立ち上げた「選手会ファンド」の第1回クラウドファンディング（2021年12月6日～2022年1月31日）で総額1,112万1,000円（運営費含む）のご支援をいただきました。災害発生時の支援を迅速に行うために不可欠な“初動”の充実や、復旧・復興、平時からの防災意識の向上に役立てます。

ふるさと納税 佐賀県ふるさと納税「発災直後の人々の命と健康を守りたい！ 民間防災備蓄プロジェクト～みんなDE備蓄～」（2021年11月4日～2022年2月1日）に、20万7,000円（運営費含む）のご寄付を頂戴しました。災害直後に必要な生活用品や避難所の環境改善につながる備蓄品など物資の適切な維持管理に役立てます。

ご支援ありがとうございました。

被災地を支援する 1

東日本大震災

あの日から11年 ― 今、私たちにできることを

広範囲に甚大な被害をもたらした東日本大震災。
時間の経過とともに復興の動きが着実に進む一方、人口減少や過疎・孤立、災害の記憶の風化など新たな課題が浮き彫りになっています。
Civic Forceは今、「コミュニティ再生」「福島・保養」「記憶の伝承」の3テーマを軸に、
被災した地域のNPOをサポートする「NPOパートナー協働事業」を実施しています。

新規プロジェクト　2022年1～3月、東北3県で新たにスタートした「NPOパートナー協働　事業」をご紹介します。

記憶の伝承

福島　富岡町3・11を語る会

学校や企業などから依頼を受けて各地で講演

福島を知ることは日本を知ること

福島原発事故により町民全員1万6,000人以上が突如、避難を余儀なくされた富岡町。11年が経った今も町の人口は1,800人にとどまっています。避難指示が解除された町を基点に「語り人（かたりべ）」の活動を続けるのが、富岡町3・11を語る会です。「人の世に起きたことは人の言葉で語り伝えなければ」と、国内外の訪問者に富岡町で起きたことを伝えてきました。2022年1月に開始したCivic Forceとの協働事業では、子どもや若者向けの「語り人」教室や交流の場づくり、伝承活動の先進地調査などを通じて、原発事故の経験を後世につないでいく取り組みを応援しています。

記憶の伝承

宮城　3.11みらいサポート

コロナ禍で続けてきた「オンライン語り部」

伝承の効果を実証する挑戦

東日本大震災後、NPO・NGO連絡会の事務局機能からスタートした石巻市の3.11みらいサポート。被災地の状況の変化に伴い、徐々に「支援の連携」から「伝承の連携」へと活動をシフトしてきました。2017年からは、東北3県を中心とする震災伝承の連携組織「3.11メモリアルネットワーク」の事務局として、各地の伝承活動をサポートしています。今年2月から開始したCivic Forceとの協働事業では、震災伝承活動が防災の行動を促す効果を検証し、その可視化に挑戦しています。伝承の取り組みの社会的価値を示し、活動の底上げに寄与することで、災害から命が守られる社会の実現を目指します。

記憶の伝承

宮城　閖上（ゆりあげ）の記憶

津波復興祈念資料館「閖上の記憶」

震災を知らない世代へ

宮城県名取市の閖上地区では、かつて約5,000人が住んでいましたが、津波で甚大な被害を受けて更地となり、閖上中学校では14人の生徒が犠牲になりました。震災から約1年後、旧閖上中学校の入り口に、慰霊碑を守る社務所として建てられた施設「閖上の記憶」は、震災の記憶を後世に伝える場所として人々の拠り所となっています。Civic Forceの協働事業ではこれまで3月11日の追悼行事の運営をサポートしてきましたが、今年3月からは「震災を知らない世代に向けた語り部講話・案内ガイドの強化事業」や組織の運営基盤を構築するための支援を開始しています。

記憶の伝承

宮城　伊達の黒船太鼓保存会

震災前の風景を集めて町の財産に

宮城県石巻市雄勝町を拠点に郷土芸能「伊達の黒船太鼓」の演奏を続ける保存会。現在、公演の傍ら、大津波で人口が約4分の1に減少した雄勝地区の震災前の祭や暮らしの風景の写真などを集めて保存する活動を行っています。Civic Forceとの協働事業では、収集した写真の印刷やデジタル化などを支援することで、雄勝の文化・伝統芸能・暮らしを財産として残し、継承していくことを目指しています。雄勝硯伝統産業会館で実施中の企画展「おがつのまつり」で写真や映像を公開中。

企画展「おがつのまつり」は3月21日まで開催

コミュニティ再生

岩手　りくカフェ

子どもの食と高齢者の健康を守る

岩手県陸前高田市を拠点に分断・喪失したコミュニティの再生を目指して活動するりくカフェは、住民主導のコミュニティ・スペースを運営しながら、食育と介護予防に力を入れています。今年1月にスタートしたCivic Forceとの協働事業では、子ども食堂の代替となる食糧支援世帯（市・社協リスト）への弁当配食や高校生対象の開発メニューコンテスト、料理教室、栄養相談・指導のほか、高齢者対象の介護予防事業などを通じて、東日本大震災の影響で深刻化した地域住民の健康課題を解決に導きます。

りくカフェ店内で開催された子ども向け料理教室

コミュニティ再生

岩手　根浜ハマナス プロジェクト実行委員会

ハマナスいっぱいの海岸を再生する

岩手県釜石市の根浜海岸は、震災によって海浜植物が減り、地域の生態系に大きな影響を及ぼしています。そこで、地域の有志が立ち上がって、釜石市の象徴花である「ハマナス」の自生する個体を増殖させて海岸の景観や生態系を再生させ、地域の貴重な観光資源を取り戻す取り組みを始めています。地域の子どもたちや専門家とも連携して、種まきや挿木、土壌改良などを繰り返し、自然と共に生きる根浜らしい持続可能な地域づくりを目指しています。今年4月、育てた苗や採集した種を植える植樹祭を開催予定。

地域の子どもたちとハマナスの苗をつくる

継続中のプロジェクト

2022年3月現在

こころスマイルプロジェクト

相馬救援隊

宮城

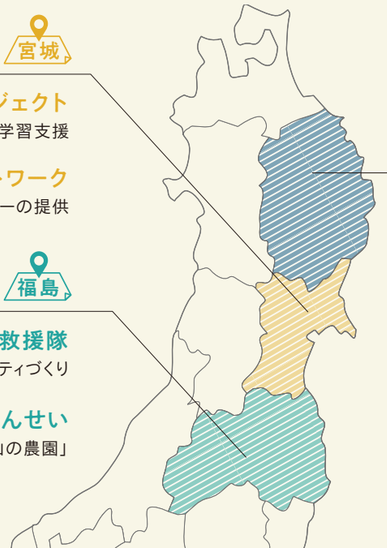
こころスマイルプロジェクト　コミュニティ再生
遺族を亡くし、こころの傷を負った子どもやその家族の心のケア・学習支援

石巻復興支援ネットワーク　コミュニティ再生
生活困窮家庭やDV被害を受ける親子へのシェルターの提供

福島

相馬救援隊　コミュニティ再生
福島県南相馬の馬事文化を生かした次世代育成・コミュニティづくり

しんせい　福島・保養
原発事故からの避難先でつくる、「持続可能な山の農園」



全国

311受入全国協議会　福島・保養
全国の有志による保養受入れプログラムの継続と発展をサポート

岩手

こそだてシップ　コミュニティ再生
妊娠期からの切れ目のない育児支援と乳幼児の防災事業

おはなしころりん　コミュニティ再生
小学校や地域団体への図書貸出、サロンでの本の貸出・読み聞かせなど

おはなしころりん

おはこざき市民会議　コミュニティ再生
釜石市の箱崎半島を舞台にした漁業体験ツアーや海の学校など

応援しています！

L'OCCITANE EN PROVENCE

「企業理念にも通じるサステナブルな取り組み」

ロクシタンジャパン株式会社
ロクシタン基金担当
中原 奈都子さん

夏に赤い花を咲かせるハマナス

ロクシタンは、土壌のごく小さな種子から、世界中へと流通する製品まで、「自然と人への敬愛」という哲学を大切にしてきました。土壌改良に始まり、育苗、植樹と長い年月をかけて地域の自然を取り戻そうとする釜石の皆さんの活動は、私たちの企業理念にも通じるサステナブルな取り組みとして、深く共感しています。

※本事業はロクシタン及びロクシタングループのご支援で実施しています。

被災地を支援する 2

2021年夏 豪雨

熱海と佐賀の地元6団体をサポート

2021年7月、静岡県熱海市の伊豆山地区で大規模な土石流被害が発生。
続く8月には九州で豪雨が発生し、たくさんの家屋や建物が浸水しました。
両災害の被災地で、「NPOパートナー協働事業」を通じて、地域の課題解決を目指す地元団体をサポートしています。

テンカラセン
熱海
地域の人が集まるカフェを

発災後、在宅避難を余儀なくされた高齢者への弁当配達や浜地区防災センターへの支援物資の運搬などを続けてきた地元有志メンバーが、2021年10月、任意団体テンカラセンを設立。高齢者の見守りや地域住民の交流イベントの開催などを行っています。現在、法人化に向けて準備中。今年4月には、伊豆山地区から熱海の海を眺められるコミュニティカフェを開設予定です。Civic ForceとのNPOパートナー協働事業では、継続的な活動のための団体基盤強化や被災者への寄り添い活動などをサポートしています。

献花台を設置し地域の人々と祈りを捧げる

NPOくすのき
熱海
被災者のペットを保護・飼育

2004年から熱海市で猫の保護活動を続ける民間ボランティア団体くすのきは、土石流被害の後、ペットを飼うことができなくなった被災者のペットを預かり、飼育することで、飼い主が安心して避難生活を送れるように支援しています。また、被災地で飼われていた猫の里親を見つけ、猫が平穏に暮らせる環境を整えることで、動物とひとが共存するやさしいまちづくりを目指しています。Civic ForceとのNPOパートナー協働事業では、11月からくすのきの運営や猫の医療費などをサポートすることで、災害対応と通常業務の両立を支援しています。

熱海や東京などで譲渡会を開催

しずおか共育ネット
熱海
子どもたちの居場所を守る

「避難所生活でストレスがたまっている」「子どもを預ける場所がなくなってしまった」。子どもをもつ親たちの声を受け、熱海市や外部支援団体などと連携して子どもたちの居場所づくりの活動を続けてきた静岡市のNPO、しずおか共育ネット。Civic Forceとの協働事業では、被災した子どもを対象にした居場所づくりや中高生対象の学習支援の運営をサポートしています。大学生やNPOと連携した中学生向けオンライン学習支援や地元の食材を生かした食育、熱海のビーチクリーンなどの環境教育を行いました。

地域内外のNPOや学生と連携して
学習支援

熱海キコリーズ
熱海
地域の拠り所、地蔵堂の復旧

熱海の森で週末林業の活動を展開する熱海キコリーズ。古くから地域の守り神として親しまれてきた浜地区の逢初地蔵堂の半壊を受け、建築技術をもつメンバーらが中心となって復旧活動を続けています。Civic Forceとの協働事業では修復に必要な機材や清掃道具などのほか、復旧活動中に起こり得るケガや事故に対応できるようファーストエイド講習の受講費用をサポートしています。安全に清掃・修繕を行い、熱海キコリーズが伊豆山の森で間伐・加工製材をした間伐材を活用して、住民の心の支えであるお堂の復旧を目指しています。

地蔵堂の修復や清掃を
続けるメンバー

めぐみ会
熱海
就労支援施設の作業所が復旧

障がいのある人たちの就労支援施設を運営するめぐみ会は、被災した作業所の復旧を目指して奮闘してきました。2021年12月末で終了したCivic Forceとの協働事業では、被災の影響で使えなくなったプリンターや冷蔵庫、利用者の送迎などに使う車両、清掃用具など作業所再開に必要な物資や運営費などをサポート。めぐみ会からは「おかげで今は被災前と同じく、熱海市内の小中学校の冊子製本や段ボールの箱折、エコバッグ製作などの内職作業、印刷業務、縫製作業を行えるようになった。寄り添う形で支援いただき活動に集中できた」との言葉が寄せられました。

復旧した作業所の隣に憩いの場を設置

ガラパゴス
佐賀
浸水被害を受けた児童支援施設が再開

「どんな子も断らない」をモットーに、知的、精神障がいなど発達障がいをもつ子どもたちを受け入れる佐賀県武雄市の放課後等デイサービス事業所ガラパゴス。浸水被害を受けた8月14日から2日間、休業を余儀なくされましたが、子どもたちの居場所を確保するため、別の場所で緊急の受け入れを続け、現在、被災前と変わらず細やかに親子をサポートできるよう、新拠点のオープンを予定しています。Civic Forceとの協働事業ではこれまで仮拠点の整備をサポートしてきましたが、2022年1月からは新拠点開設に向けた支援を行っています。

遊具などを使って体を動かす子どもたち

被災地を支援する 3

東北から九州まで 各地で協働事業展開中

NPOパートナー協働事業

新型コロナウイルスの感染拡大がおさまらない中、復旧・復興の途上にありながら、コロナ禍で厳しい状況に陥ってしまう人々がいます。
Civic Forceは2020年6月からコロナ対策事業として、被災地のNPOをサポートしています。また、2019年と2020年の災害被災地で引き続き「NPOパートナー協働事業」を展開中。2022年3月現在実施中のプロジェクトは以下の通りです。

新型コロナウイルス感染症

カーロふくしま
福島
子どもの学習支援の場「カーロでスタディ」

石巻復興支援ネットワーク
宮城
コロナ禍における復興住宅のコミュニティ支援

TEDIC
宮城
フリースペースの開設と子どもたちの居場所づくり

World Open Heart
全国
コロナ差別緊急ホットライン開設中

©TEDIC

2020年九州豪雨

あまみら
大分
天ヶ瀬温泉街発の情報誌発行

2020年7月の豪雨災害をきっかけに、大分県日田市天ケ瀬温泉街で立ち上がったあまみら（旧天ヶ瀬温泉未来創造プロジェクト）。発災後、旅館や飲食店、地域おこし協力隊、観光協会などのメンバーが、炊き出しや防犯対策などを続け、現在は地域の将来を見据えた復興まちづくりを進めています。2022年1月まで実施したNPOパートナー協働事業では、被害状況や避難方法、河川整備計画、地域で暮らす人々の思いなどを取材して、わかりやすく伝える情報誌『あまみら通信』を作成。また、天ヶ瀬地区の河川整備計画に関する勉強会などを開催し、地域で暮らす人々とともに地域の再生を目指しています。

こだわりの詰まった『あまみら通信』

2019年台風19号

しなの長沼・お屋敷保存会
長野
地域の伝統をつなぐ古民家再生プロジェクト

2019年の台風19号の際、発災直後から炊き出しや救援物資の提供、地域コミュニティの場づくりなどを続けてきたHope Apple（穂保〈ほやす〉被災者支援チーム）は、2021年に「一般社団法人しなの長沼・お屋敷保存会」を立ち上げ、長沼地域の歴史的景観を守る取り組みを行っています。Civic Forceとの協働事業では、被災した文化財的価値の高い古民家の修復をサポート。公費解体するのではなく、地域再生の場として活用していくため、利活用に関するワークショップや広報・ファンドレイジングのためのホームページ作成など組織基盤強化の取り組みをサポートしています。

古民家修復ワークショップを開催

Column コラム

Build Back Better
被災を乗り越え、より良い社会をつくるために

Civic Forceの「NPOパートナー協働事業」では、各事業の妥当性や有効性、効率性、インパクトなどを正しく評価・分析し、より良い社会づくりに役立てるため、多方面で実績のある外部の専門家と協力しています。

近畿大学国際学部国際学科
グローバル専攻 准教授
／NPOパートナー協働事業
専門家（アドバイザー）

桑名 恵さん
Kuwana Megumi

災害は多くの被害をもたらしますが、そこから復興しようとする社会では、被災を乗り越え、より良い社会をつくるために、人と人の新しい関係や今までにない試みがたくさん生まれます。前例のない挑戦には試行錯誤がつきものです。
Civic ForceのNPOパートナー協働事業は、地元の人々の声をききながら、行政による助成金ではカバーされない領域や時期の新しい動きを応援し、育て、また継続するためのサポートをしてきました。保健医療から教育、エネルギー、観光、災害に強いコミュニティづくりまで、これまでサポートしてきた領域は多様で、また緊急期から10年という長さにもNPOパートナー協働事業の特徴が現れています。地元発の動きを大切にし、その動きからつながり方を変え、これまでにはない新しい社会の土台づくりに、NPOパートナー協働事業は大きな力を与えてきたと思います。

緊急即応体制を創る　アジアに展開する

緊急対応のカギは セクターを超えた連携

大規模な災害が起きたとき、一つの組織にできることは限られています。
皆様からのご支援を最大限に生かすため、災害後の社会に大きなインパクトをもたらす仕組みづくりに力を入れています。

火山噴火のトンガで緊急支援

アジアパシフィック アライアンス（A-PAD）

ASIA PACIFIC ALLIANCE FOR DISASTER MANAGEMENT

東日本大震災の翌年、インドネシアで開催されたアジア防災閣僚級会合の場で発足した国際機関A-PAD。災害が多発するアジア太平洋地域で、被害を最小限に減らすため、関係国の企業、NPO、行政、研究機関、メディアなどが協力して相互に助け合うプラットフォームを構築しています。2022年3月現在、日本、インドネシア、韓国、スリランカ、フィリピン、バングラデシュの6カ国が加盟し、各国・地域ならではの災害時相互連携の仕組みが確立されつつあります。

2022年1月に発生したトンガ沖の大規模噴火に際し、A-PAD本部やA-PAD韓国が緊急募金を開始。トンガの大使館や商工会議所などと連携してマスクや防護具などニーズに合わせた物資を届けています。また、2021年12月の台風に見舞われたフィリピンやネパールの洪水被災地でも緊急支援活動を展開しています。

写真上：トンガ上空から噴火被災地の様子を撮影
写真下：トンガのファアモツ空港で物資を降ろすA-PADスタッフ

【私たちが一歩を踏み出す理由】
災害大国・日本が培った「コロナ禍での緊急支援」の知見をトンガに共有
https://courrier.jp/columns/278916/

コロナ禍の緊急医療支援

空飛ぶ捜索医療団 ARROWS（アローズ）

昨今の度重なる自然災害でより迅速な緊急支援活動を展開するため、Civic Forceは、2019年12月、広島の災害支援NPOとともに、緊急災害支援プロジェクト、空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”を立ち上げました。発足後、最初の大規模ミッションとなった新型コロナウイルス感染症の緊急支援活動では、広範囲かつ長期にわたる社会危機を「災害」と捉え、災害用に備蓄していたマスクや医療資機材などを全国の医療・福祉施設などへ届けました。

2022年3月現在、第6波により全国各地の医療機関や福祉施設が切迫した状況にある中、宮城や広島、北海道、沖縄から要請を受けて、医師や看護師からなる医療チームを派遣し、感染対策強化や人手不足を補う役割を果たしています。

北は北海道から南は沖縄まで要請を受けて医師や看護師を派遣

復興を超えた地域経済を生み出す「共益投資」

共益投資基金JAPAN

2011年3月の東日本大震災以降、Civic Forceへの寄付金を原資に、2011年11月に設立された一般財団法人共益投資基金JAPAN（前・東北共益投資基金）。被災した地域の経済復興を支えるため、復旧・復興を超えた新しい経済モデルの創生を目指して「共益投資」の概念を生み出し、これまでに東北で14案件、熊本で3件の支援を展開してきました。

一部、償還も実現し、2018年からは公益財団法人さなぶりと連携して基金を設立し、地域のNPOに助成しました。引き続き支援先のバリューアップのお手伝いをしています。

2021年度の報告書はこちら

環境優先型ゲストハウス「Active Life -YADO-」の自然体験アクティビティ

緊急即応体制を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるための
さまざまな取り組みを行っています。
メディア掲載や協力企業・団体の皆様の関連情報もお知らせします。

体験型イベント「みんなDE防災」開催

Civic Forceと東京海上日動火災保険（株）は、3月12日、体験型イベント「みんなDE防災2022 防災のことを考えよう!!」を、佐賀県佐賀市の「どんどんどんの森ふれあいの広場」で開催。多くの企業・団体と協力し、災害時に役立つグッズや給電機能付き車両、非常用トイレの展示、抽選会付きスタンプラリーなど、親子で楽しく学べる防災イベントです。

佐賀県から感謝状

2月4日、佐賀県庁県民ホールで、2021年8月豪雨災害において協力・支援を行った23の企業・団体への感謝状贈呈式が行われました。佐賀県の山口祥義知事からは、避難所への物資の提供や無料タクシーチケットの配布などきめ細やかな支援に対する感謝の意が述べられ、Civic Force代表理事の根木佳織が感謝状を受け取りました。

東京・中野中学校「社会貢献活動調査」に協力

2月18日、総合的な学習の一環で「社会貢献活動調査」に取り組む東京都中野区立中野中学校2年生のオンラインインタビューに協力しました。昨年の熱海土石流被害や九州豪雨、2011年の東日本大震災での取り組みをはじめ、災害時のCivic Forceの役割についてお話しました。中学生は「やりがいは？」「大変だったことは？」「中学生にもできることは？」などたくさんの質問を寄せてくれました。

メディア情報

21.12.25	雑誌	広島アスリートマガジン2022年1月号 「野球を通した社会貢献 『選手会ファンド』ついに実現！」
21.12.09	WEB	Player’s Plus 「いざという時、いち早く支援を届けるために ――プロ野球選手会が“選手会ファンド”を設立」
21.11.23	新聞	佐賀新聞 自然災害に備え協業 シビックフォースと東京海上日動佐賀支店

プログラムコーディネーター募集 @福島・岩手

NPOパートナー協働事業

東日本大震災「NPOパートナー協働事業」のプログラムコーディネーターを募集しています。福島県と岩手県を拠点に被災地の復興支援に携わってくださる方のご応募をお待ちしています。

もっと気軽に社会貢献！

活動全般

- ふるさと納税（佐賀県NPO支援）
  https://www.furusato-tax.jp/city/product/41001/107
- バリューブックス「チャリボン」
  http://www.charibon.jp
- ヘッズ「チャリティハピネスレジ袋」
  https://www.e-heads.co.jp/products/detail2/3219
- サンナップ（アスクル限定販売）「フェーズフリー認証 紙コップ メジャーメント」
  https://askul.disclosure.site/ja/themes/103
- 本棚お助け隊「古本チャリティ募金」
  https://hondana.biz/charity-application/
- ECナビ「スマイルプロジェクト」
  https://ecnavi.jp/smile_project/

新型コロナウイルス緊急支援

1枚購入で100円寄付

- BEAMS「ビームスマスク」
  https://www.beams.co.jp/brand/901658/
- Yahoo!ネット募金
  ●パートナー協働事業 http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747017
  ●病院にトレーラー等貸与 http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747016
- GlobalGiving（英）
  https://www.globalgiving.org/projects/coronavirus-relief-aid-distribution/

東日本大震災

- Yahoo!ネット募金
  http://donation.yahoo.co.jp/detail/3747011

1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして毎月定額（1000円単位）のご寄付で支えてください（クレジットカードのみ）。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀　行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964
- ゆうちょ：00140-6-361805
  （上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シビックフォース」）
- クレジットカード:HP「オンライン募金」より
  https://bokinchan3.com/civicforce/donation/bokin/page1.php

公式SNS　シビックフォース

- twitter https://twitter.com/civicforce
- facebook https://www.facebook.com/civicforce
- YouTube http://www.youtube.com/civicforceorg
- Instagram https://www.instagram.com/civicforce/

●ニュースレターのバックナンバーはこちら▶ https://www.civic-force.org/news/newsletter/
●メールマガジン「被災地の今を知る」登録▶ https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html

CIVIC FORCE
NEWS LETTER
シビックフォース ニュースレター
vol.26
2022.03

あの日から11年

東日本大震災応援企画

次の10年につなぐ、11年目の追悼の祈り

3.11を風化させない

3月11日14時46分。
毎年、地震が発生した時刻に、東北沿岸の各地で追悼の祈りが捧げられます。

犠牲者を悼む追悼行事は、年に一度のとても大切な時間です。
しかし国の追悼式は10年の節目を機に終了。自治体の行事も縮小傾向にあります。
住民有志が持ち出しで続けてきた追悼行事も
地域経済の低迷や新型コロナウイルスの影響で岐路に立たされています。

Civic Forceの東日本大震災支援事業では、
被災した地域で続く追悼行事をなんとか存続させて来年につなげるため、
2022年3月、各地の有志団体の取り組みをサポートしています。

11年目の「追悼」の時間は、犠牲者を悼むだけでなく、あの日の記憶を
振り返り、教訓を後世に伝えていくための「伝承」の取り組みでもあります。

震災から11年。復興伝承施設などハード面の整備は着実に進みましたが、
人から人へ次世代へと引き継いでいくソフト面の伝承の取り組みは
まさにこれからが正念場です。

クラウドファンディング実施中

［東日本大震災応援企画］
次の10年につなぐ、11年目の「追悼の祈り」

目標金額：1,000,000円

READYFOR

3/31まで

白菊実行委員会　記憶の伝承

津波で甚大な被害を受けた岩手県釜石市鵜住居（うのすまい）町で、若手有志が中心となって、3月11日19時、追悼の花火をあげます。「白菊」と呼ばれる花火は、シベリア抑留で命を落とした戦友を弔うために新潟県長岡市の花火師によって作られたのが始まり。「世界中のすべての爆弾を花火に変えたい」との思いで、1945年8月1日の新潟・長岡空襲の日や終戦の日などに各地で打ち上げられています。2020年からは白菊を製作する（有）嘉瀬煙火工業の協力のもと、鵜住居町でも3月11日に追悼の花火をあげています。

閖上の記憶　記憶の伝承

宮城県名取市立閖上（ゆりあげ）中学校では、14人の生徒が津波の犠牲となり、約1年後、津波復興祈念資料館「閖上の記憶」を開所。日頃は来館者へ震災学習プログラムなどを提供しています。3月11日にここで毎年実施される「追悼のつどい～みんなのこと、わすれないよ～」は、遺族だけでなく、その気持ちに寄り添いたい、閖上でこの日を過ごしたい、と想う方たちが全国から多く訪れます。2022年3月11日も、震災で亡くなられた方々への黙とうと鳩風船にメッセージを書き、空へ届ける「追悼のつどい」を開催します。

発行：公益社団法人 Civic Force（緊急即応チーム）
本部事務所：〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階
TEL：03-5790-9366　FAX：03-5790-9368
佐賀事務所：〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6階
E-Mail：info@civic-force.org
発行日：2022年3月